

### 3 プラチックを減らす

燃やすごみの約15%を占めるのは「プラスチック」です。プラスチック製のスプーンやストローはもろわないう、詰め替え用ボトルなど繰り返し使えるものを選び、プラスチックを減らす工夫をしましょう。

次のものを容器包装プラスチックとして出せば、リサイクル可能なため、燃やすごみを減らせます。汚れているものは軽く水洗いをお願いします。

**こんなものが「プラ」です**

- シャンプーやリンスなどのボトル
- コンビニ弁当などの容器
- ペットボトルのふたやラベル
- ゼリーやヨーグルトなどの容器
- お菓子やパンなどの袋
- スーパーなどのレジ袋

このマークが目印です

### 4 草木類を減らす

平成28年に行った家庭ごみの組成分析調査では、燃やすごみの25%を占めていた草木類ですが、資源化が進んだことにより、9%になりました。

さらに資源化を進めましょう

せん定枝と刈草、落ち葉などの草木類の資源化を実施しています。

資源化量は、以前と比べて増えていますが、まだまだ「燃やすごみ」として出されているのが現状です。

**出し方**

収集方法は次の通りです。いずれも土や砂を落とし、他のごみは混ぜないでください。

**① 戸別収集**

事前に担当へご連絡ください。自宅まで収集に向います。**【大町・量(回)】**

45リットルの袋に入れて2袋以上木や枝や草や葉を同じ袋に入れても可、または3束以上(1本当たりの長さ1m以内、太さ15cm以内)

**② 自己搬入**

草木類を担当まで持ち込んでください。中身を確認し搬入確認書を発行しますので、指定事業者へ直接搬入してください。大きさを制限はありません。袋やひもは持ち帰ってください。搬入確認書の発行は月々土曜日の午前9時～11時、午後1時30分～4時(休日、年末年始を除く)

**対象とならないもの**

- ◇キョウチクトウなど毒性のあるもの
- ◇竹、ササ、芝生、根株
- ◇除草剤や砂(砂利)、多量の土が付着したもの
- ◇野菜や果実など
- ◇ごみが混入しているもの
- ◇造園業者やシルバー人材センターなど事業者に依頼したもの

### 「有料化を阻止するために」

草木類の資源化のため、各自治会などでは草木類集積所の設置が進んでいます。各家庭から出た草木類を燃やすごみとして出すのではなく、地域でまとめて資源として出すための場所、開始して2年で22カ所まで増えています(10月1日現在)。

板戸第二自治会では今年8月から2カ所の集積所を開設しました。副会長衛生委員の稲本さんは「ごみの有料化を阻止するため、自治会としてできることはなにかと考えたのがきっかけです。地域の皆さんに協力いただき、使用していただけたら、燃やすごみの集積所を活用しました。週に1回程度、市に収集を依頼していますが、これだけの量が燃やすごみとして出されてきたのだから、設置の意義を感じています。日常的に家具や野菜類など対象ではないものも混ざっているのが注意喚起されていますが、対応に苦慮しています」と話します。

自治会の役員自ら、集積所の場所を示す案内板を作製したり、回覧板での周知を図ったりしているのに加え、収集するためのごみ袋も無償で配布しています。

今後は集積所から遠いところに住んでいる人に向けて収集方法も考えているそうです。

### 木質系粗大ごみの資源化を始めました

昨年11月から、粗大ごみを分別・解体し、木質系部分だけを資源化事業者へ引き渡す事業を開始しました。令和2年度(5カ月間)は、28トン、紙の原料や燃料チップに資源化しました。

また、粗大ごみを収集する際に、木質系とそれ以外の粗大ごみが混在しないよう、木質系素材のものをまとめて収集したり、解体・分別作業に当たる職員を増員したりした結果、4月からの5カ月間で61トン資源化しました。

職員が金具などを取り除いています

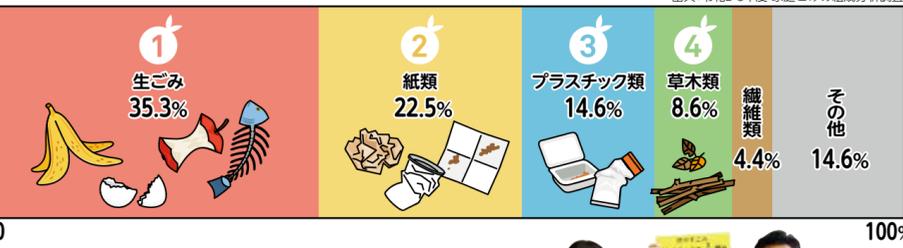
# ごみを減らす、醍醐味

## 無理なく進める、ごみ減量

令和2年度に市内から出た可燃ごみの総量は約2万4000トン。その約8割は家庭から出されたものです(残りは事業系ごみ)。中でも生ごみと紙類、プラスチック類、草木類が占める割合が高く(下の組成分析調査結果グラフ参照)、この4種類の減量に努めることが、総量を減らすための大きな成果につながります。

ただし、体のダイエットと同様、急激に日常生活を変化させるとリバウンドしてしまい、やる気を無くしてしまう可能性もあります。無理なく、楽しみながらコツコツと継続することがごみを減らすポイントです。

環境美化センター 番 94-7502



### 職員に聞きました / 市の現状と取り組み

環境美化センターの職員が、ごみ処理の状況を話してくれました。

横山 主査 大町 所長  
※撮影のため一時的にマスクを外しています

### 1施設化の早期実現へ

伊勢原市と秦野市の燃やすごみは現在、2施設(伊勢原清掃工場とはだのクリーンセンター)で焼却処理しています。

焼却施設の老朽化に伴う維持管理費の増加\*により、今後も多額のコストがかかると見込まれています。

主な要因は、コロナ禍で事業系ごみが減ったことと、減量意識の高まりなどによる草木類の資源化やごみの分別が図られたことが挙げられます。

処理費用の抑制を考慮し、伊勢原清掃工場の90トン焼却炉を令和7年度末で稼働停止する予定でしたが、減量化を進め、はだのクリーンセンター1施設化の早期実現を目指します。

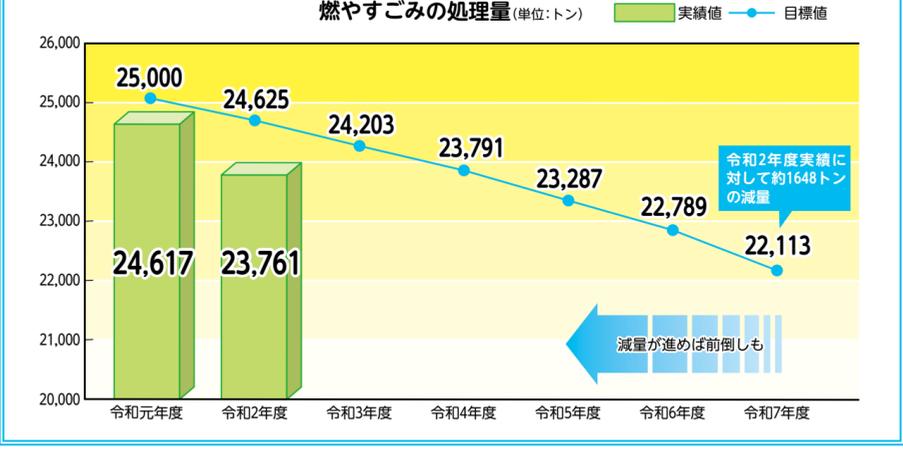
このため、両市をあげて、さらなるごみの減量化に向けた取り組みを進めています。

**令和2年度の状況は**

燃やすごみの処理量は2万3761トンで、前年度実績を856トン下回り、目標値2万4625トンより864トン下回りました。

伊勢原清掃工場の稼働停止を実現するための目標値は、約2万2113トン。2年度より約1648トンの減量が必要となりますが、1日に換算すると、1人当たり約2/3個分の44グラムで達成できます。ご協力をお願いします。

順調に減量化が進んでおり、3年度も、9月までの前年比で397トン下回っています。



### 1 生ごみを減らす

燃やすごみの中で一番多いのが生ごみです。生ごみには、食べられるのに食べ切れなかった「食品ロス」によるものも含まれています。食品ロスは、日本全国で年間600万トン出ているといわれ、一人につき1日茶碗1杯分を捨てている計算になります。

まずは冷蔵庫の利用方法を見直すことから始めましょう。

**「ごみを捨てる前に、これだけは守りましょう」**

**生ごみは水切りを**

生ごみの約7割は水分です。この水分が、悪臭や重さの原因になります。捨てる前には、ギューッとひとしぼりして水分を切りましょう。

**冷蔵庫の上手な活用を**

「ごみを減らす近道は「食べきれない」こと。無駄なく買い、おいしく食べきることで、食品ロスは減らせます。

使いかけは目立つ場所に

使いかけのものや早く食べたほうがよいものは、クリップで留めて目立つ場所に。

空間を作る

その日の残り物を入れるスペースを作ると便利です。

冷蔵庫は立てて収納

食材を立てて並べると見えやすく、取り出しもスムーズになります。また、冷蔵庫は空間をあけずに収納すると電気代の節約になります。

透明容器に入れる

中身と残りの量が見えるので、使い忘れ防止になります。

シールやラベルを貼る

よく見える場所に貼ると、冷蔵庫の中が一目瞭然。期限を書くと、期限切れ防止にもなります。

カゴやトレイを使う

奥にしまったものや小さいものが取り出しやすくなります。

### 2 紙類を減らす

燃やすごみの約23%を占める紙類は、分別するとリサイクルペーパーや段ボールなどに生まれ変わります。

資源になる紙類には、新聞折り込み広告(含む)や雑誌、書籍、段ボール、飲料用の紙パックのほか、次のものも「雑紙」として資源化できます。

**知っていますか、資源になる紙**

年間約5227トンが焼却されています。身の回りの多くの紙が「資源」としてリサイクルできるため、燃やすごみに混ぜてしまわずに資源の回収日に出してください。

紙袋にためて出す

束ねてひもで縛って出す

お菓子などの紙箱に入れて出す

この袋いっぱい約2kg減量できます

雑紙の出し方

ごみの削減は、国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)\*のゴール11(住み続けられるまちづくりを)やゴール12(つくる責任つかう責任)、ゴール14(海の豊かさを守ろう)を達成するためにも、重要な課題です。

\*Sustainable Development Goalsの略。平成27年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標。17のゴールと169のターゲットから構成されている

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
SDGsのロゴマーク